

幾何入門 演習問題 13 (2012年7月19日)

担当：境 圭一

1. (1) $\Omega \subset \mathbb{R}^3$ とし, $f: \Omega \rightarrow \mathbb{R}$ を C^∞ 級関数とする. $\text{rot}(\text{grad}(f)) = \mathbf{0}$ を示せ.
 (2) $\mathbf{V}: \Omega \rightarrow \mathbb{R}^3$ をベクトル場とする. $\text{div}(\text{rot } \mathbf{V}) = 0$ を示せ.
2. 次のベクトル場 $\mathbf{V}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ のうち, $\mathbf{V} = \text{grad}(f)$ の形になるものはどれか (ヒント: \mathbb{R}^3 が単連結であることから, $\text{rot } \mathbf{V} = \mathbf{0}$ かどうかを調べればよい)
 - (1) $\mathbf{V}(x, y, z) = (x, y, z)$
 - (2) $\mathbf{V}(x, y, z) = (F(x), G(y), H(z))$, ただし F, G, H は一変数関数
 - (3) $\mathbf{V}(x, y, z) = (y, z, x)$
 - (4) $\mathbf{V}(x, y, z) = (2x + y - z, x - y - 3z, -x - 3y + 4z)$
3. (教科書の例 2.38) S を閉曲面とするととき, $\int_S \text{rot } \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} = 0$ を示せ.
4. (教科書の系 2.40) S_1, S_2 を向きをついた境界つき曲面とし, 境界のみで交わるとする: $S_1 \cap S_2 = \partial S_1 = \partial S_2 (= L \text{ とおく})$. $i = 1, 2$ に対し, S_i の向きから定まる ∂S_i の向きを考えると, L に二つの向きが入ることになる. ここでは, 二つの向きが一致するように S_i に向きが定まっているとする.
 - (1) あるベクトル場 $\mathbf{V}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を使って $\mathbf{W} = \text{rot } \mathbf{V}$ と表されるような \mathbf{W} を考える. このとき Stokes の定理を使って $\int_{S_1} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S} = \int_{S_2} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S}$ を示せ.
 - (2) $i = 1, 2$ に対し, S_i の向きを定める法ベクトル場を $\mathbf{n}_i: S_i \rightarrow \mathbb{R}^3$ とする. $p \in L$ に対し, $\mathbf{n}_1(p) = -\mathbf{n}_2(p)$ であることを示せ.
 - (3) 和集合 $S := S_1 \cup S_2$ が滑らかな閉曲面になるとする. $\mathbf{n}: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$\mathbf{n}(q) := \begin{cases} \mathbf{n}_1(q) & q \in S_1 \\ -\mathbf{n}_2(q) & q \in S_2 \end{cases}$$

で定めると, (2) より \mathbf{n} は連続になり, S の向きを定める. $\text{div } \mathbf{W} = 0$ が成り立つとき ($\mathbf{W} = \text{rot } \mathbf{V}$ は仮定しない), S に対し Gauss の発散定理を使って (1) と同様の等式を示せ.

レポート問題 13 (7/26 の講義開始時まで提出してください) 名前を忘れず書くこと

$S := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z \geq 0\}$ とする. ベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := (y(1-z), x(z-1), xyz)$ に対し, $\int_S \text{rot } \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.

(定義通りに計算するのは大変だが, Stokes の定理を使えば計算量は少なく済む)